

令和5年度 安来市地域ケア推進会議 ～地域の「移動支援」を考える～

本年度は国の伴走支援を受け、地域の移動支援を考えるをテーマに、とりわけ「住民主体の移動支援」についての可能性や方向性を協議するため、3月2日（土）アルテピアにおいて多数の参加のもと盛会裏に開催しました。

当日は、安来市長の挨拶に続き①講演②校区别地域ケア会議の報告・提案③全体協議を行いました。特に、全体協議では活発な意見交換があり、新たな施策形成や住民主体の移動支援に向けての気運が高まる実りある会議となりました。

講演



講演 I 『移動支援と財源づくりについて』
一般財団法人 医療経済研究機構
副部長 服部 真治 氏



講演 II 『住民主体の移動支援について』
NPO法人 全国移動支援ネットワーク
事務局長 伊藤 みどり 氏

全体協議



ファシリテーター
服部 真治 様

アドバイザー
伊藤 みどり 様

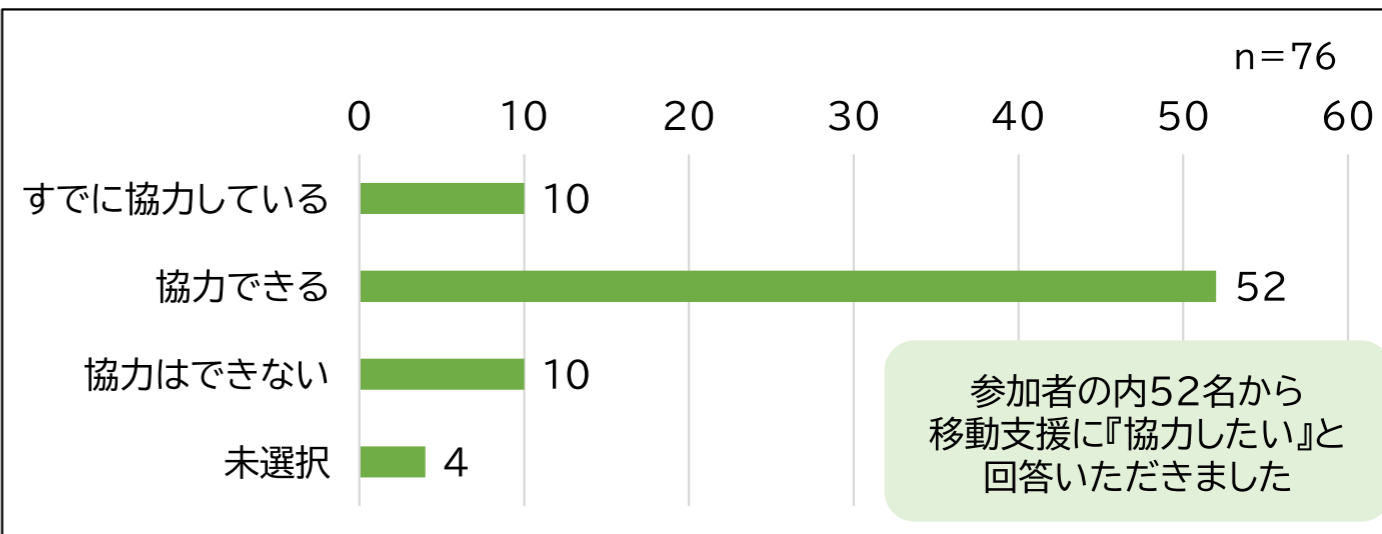
介護保険課 皆尾 様

地域振興課 石川 様

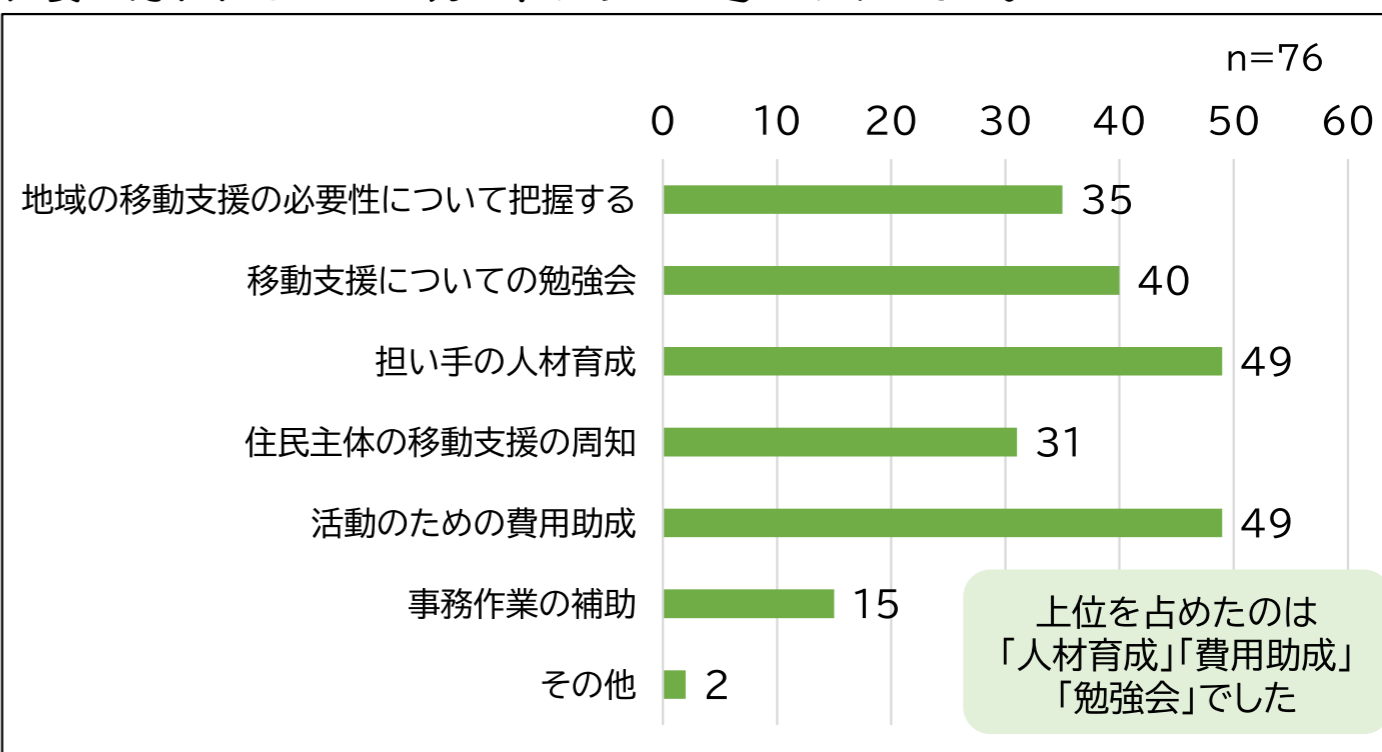
生活支援コーディネーター
内田 様

参加者へのアンケート結果

Q. あなたの生活している地域で「住民主体の移動支援」が実施される場合に協力できそうですか？あてはまるものを一つ選んでください。



Q. あなたの生活している地域で「住民主体の移動支援」を実施するために必要と思われることを次の中から3つ選んでください。



Q. 会議全体を通してのご意見・ご感想（一部抜粋）

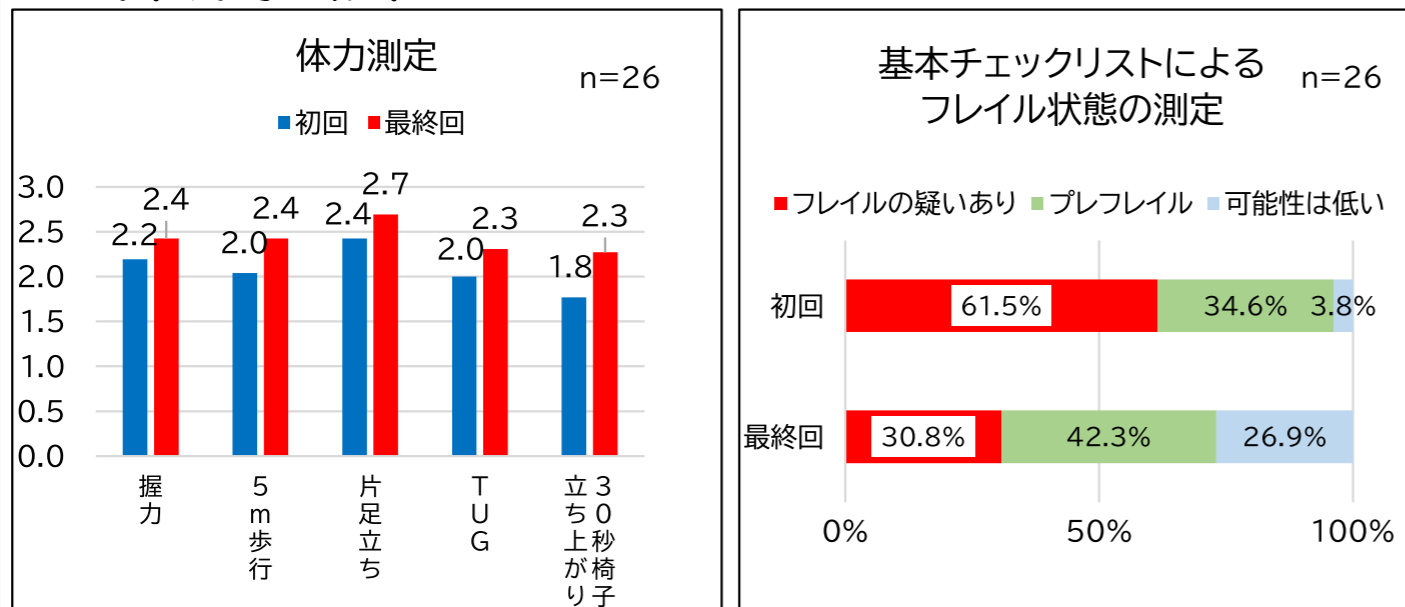
- ・こうした政策形成のやり方を今後も進めていきたいと思った。
- ・他人事ではなく自分事としての意識付けが必要。
- ・もっと多くの方に知っていただきたい内容だった。
- ・校区ごとに開催される地域ケア会議をオープン参加できるように周知をお願いしたい。
- ・今回のテーマは今後、益々、重要になってくるので、特に関係部署では検討をしてもらいたい。

令和5年度 通所型サービスCの結果

■ 通所型サービスCとは

専門職の指導のもと運動・栄養・口腔に関するプログラムを3カ月間短期集中的に提供し、利用者がフレイル・要介護状態になることを予防するとともに、自ら継続して介護予防に取り組み、地域で自立した生活が維持できるよう支援する事業です。

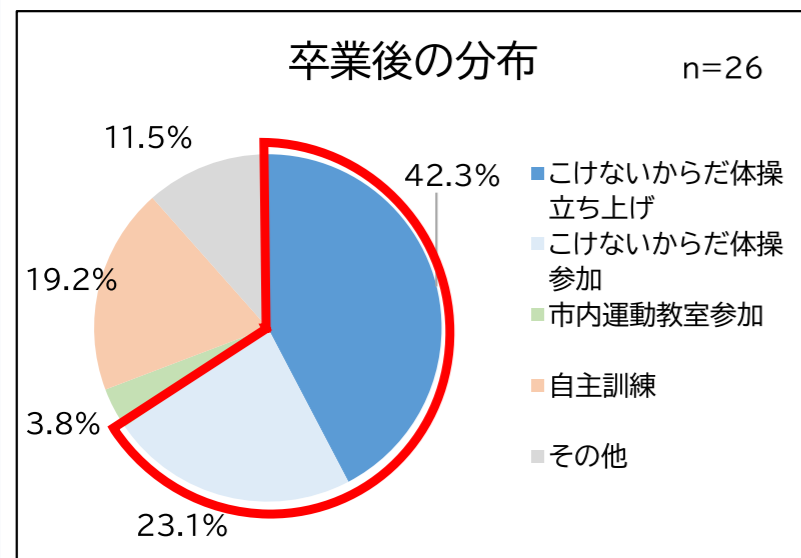
■ 効果測定の結果



令和5年度各クール初回と3ヶ月後に行った効果測定の結果、「体力測定」においては全ての項目で改善傾向がみられ、「基本チェックリスト」によるフレイル状態の測定では「フレイルの疑いあり」とされていた方が減少する結果が明らかになりました。

その他、口腔機能や認知機能に関する測定でも全てのクールで改善傾向がみられました。

■ 卒業後の活動



令和5年度利用者が卒業後、どのように活動されているか聞きとりを実施しました。

身近な地域での新たな立ち上げや既存の団体への参加等、約7割の方が「こけないからだ体操」を卒業後は実施し、継続したフレイル予防を行っておられることが明らかになりました。

訪問介護実態調査報告書を発行しました

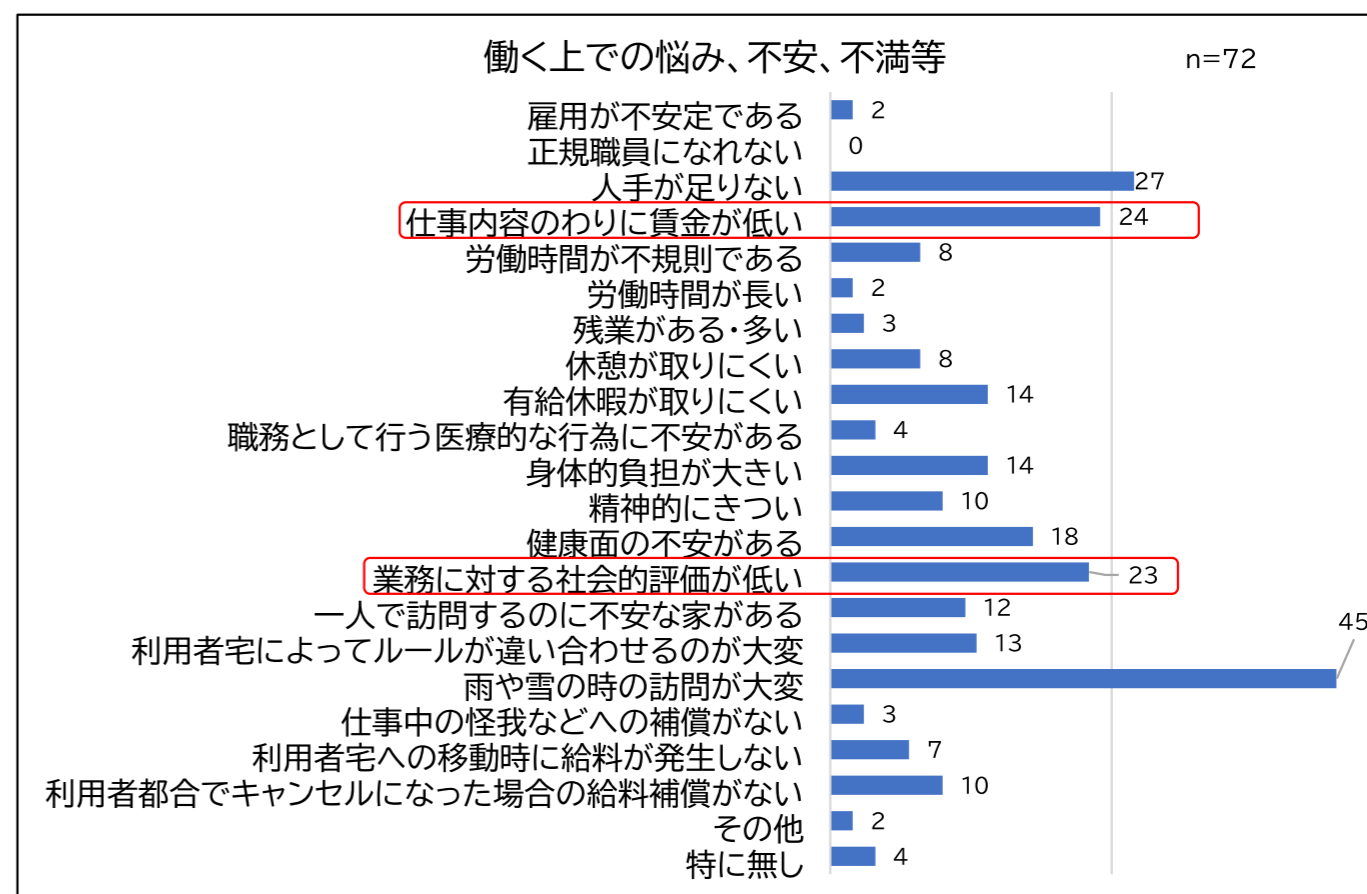
■ 調査目的

訪問介護職員の人材確保の状況や今後のサービス提供に対する考えを把握し、訪問介護職員確保のための施策の基礎資料とすることを目的としました。

■ 調査対象・回収結果

	配布数	回収率
訪問系事業所（法人等）	9件	88.9%
訪問介護等職員調査	83件	86.7%
学生及び初任者研修受講者調査	85件	49.4%

■ 調査結果（一部抜粋）



調査の結果、訪問介護職員の「働く上での悩み、不安、不満」についての特徴的な回答として「仕事内容のわりに賃金が低い」「業務に対する社会的評価が低い」等があげられました。

このことから、安来市内における訪問介護サービスの充実に向け「訪問介護サービスの専門性に対する理解促進と訪問介護員の社会的地位向上に向けた取り組み」や「訪問介護サービス事業所の経営基盤の強化によるサービス提供地域の拡充」等の提案を行いました。

なお、報告書本文は安来市地域包括支援センターホームページより閲覧可能です。